

若い世代に信仰を伝えよう

本愛団第54回総会 / 春の学生おぢばがえり近づく



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

少年会本愛団では、3月24日に「第54回総会」を開催する。

また、本愛学生会では、3月28日に本部で開催される「春の学生おぢばがえり」への参加が呼びかけられている。これらの行事を活用しながら、一人でも多くの若人にお道につながってもらえるよう、若い世代の発掘や育成に努めさせていただきたい。

少年会本愛 少年会本愛 少年会本愛

また午後からは、本年少団では3月24日午前10時より、大教会神殿を会場に「第54回総会」を開催する。

昨年引き続き、十二下りてをどりまなびを、少年会員らが8交代で行う。

また午後からは、本年少団では3月24日午前10時より、大教会神殿を会場に「第54回総会」を開催する。

また午後からは、本年少団では3月24日午前10時より、大教会神殿を会場に「第54回総会」を開催する。

また午後からは、本年少団では3月24日午前10時より、大教会神殿を会場に「第54回総会」を開催する。

年間活動目標

今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

立教187年 春の学生おぢばがえり

「立教187年春の学生おぢばがえり」が3月28日に親里で開催される。

本愛学生会では、今回は日帰りの団参を計画。参加する学生たちには、信仰や友情を深め合い、道の学生としての自覚を高める貴重な機会となる。

当日は早朝、大教会を出発し、10時から行われる式典へ参加する。その後は各直属ごとに「直属アワー」が行われる。各教区から参加した本愛につながる学生も本愛詰所に集まり、本愛につながる学生同士で親交を深め合う。

当日、大教会集合は午前7時15分、解散は午後5時頃の予定。参加対象者は、高校生（新1年生を含む）・大学生・短期大学生・専門学校生・大学院生などで、申し込みは、参加御供千五百円を添えて大教会神殿事務所まで。

少年会 ニコリンピックを開催



少年会本愛団は2月18日、大教会にほど近い日吉小学校体育館を会場に、「少年会ニコリンピック」を開催。参加した少年会員は121名。会場は大きな盛り上がりを見せていた。

入社祭・春季靈祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
女子青年例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
少年会本愛団第54回総会	24日	午前10時
修養科志願者面接	25日	午後1時
本部月次祭	26日	午前9時
春の学生おぢばがえり	28日	午前10時

(於 本部中庭)

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



明治44年の『みちのとも』に、教祖からこのように聞かせていただいたという方の話が掲載されています。

「薄紙一枚づつの徳を積み、一日に薄紙一枚づつ積み、一年に三百六十枚、之を五年、十年、二十年と積み、果は刀で斬つても切れない、大砲が当つても透らないやうになる。徳を積むのもこれの通り、毎日怠らず積み、終には富士の山よりも高くなる」

アメリカから修養科へ

ところで本愛大教会には、台湾とアメリカのジョージア州にそれぞれ教会があります。昨年から今年にか

てそれぞれの教会に御用で参拝させていただきます。

ジョージア州には他に天理教の教会はありません。そのた

め周辺に住む他系統のようぼく・信者さん方が、会長さんと奥さんの人柄もあつて遠路を厭わず参拝されておられました。

その教会の娘さんと結婚されたアメリカ人のご主人が、このたび修養科を志願されました。まったく教えを知らなかったアメリカ人の方が、おぢばで3か月過ぎ、修養科でお道の教えを学ぶということが、どれ



ほど大変なことなのか、私には想像もできません。また、このようなご守護は一朝一夕にお見せいただけることでもないだろうと推察します。

おそらく奥さんをはじめ、家族が少しづつ、しかし着実に、まさに薄紙を重ねていくように、にをいをかけ続け、教えを説き続けた結果だろうと感じます。

台湾でも、コロナ禍の中で厳しい状況が続いていますが、先日の月次祭には数年ぶりに参拝してくれた方がいらつしやつたということ、で会長夫婦がとても喜んでおられました。これもおそらくは会長夫婦の日頃の声かけが実を結んだのではないかと思えます。

「薄紙一枚でいい」

お道全体の様相からすれば、いづれも非常に小さな一歩かもしれませんが、必ず親神様が必要なときに必

要な分だけご守護をくださると考えれば、これほどありがたいご守護はないと感じられます。

お道を信仰する私たちは、ついつい「もっとやらなければ」「これくらいでは足りないのでは」と焦りを感じがちですが、この教祖のお言葉は「(無理をせず)薄紙一枚分の徳積みでいい」とおっしゃっているようにも聞こえます。

大きなご守護を願つてにをいがけ・おたすけに日々奔走することもとても尊いことですが、ゴミ拾いや掃除など、いつでも誰でもできるような、ごく小さな徳積みでもいい。けれどもそれを毎日積み重ねることが、何より大切なのだらうと感じます。

年祭活動2年目という旬の中で、自分に何ができるだろうと考えるときには、ぜひ思い出してくださいだいたのお言葉だと思えます。

公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



本部神殿の中央にあるかんろだい。それが建てられている場所がおぢばで、天理教信仰の中心であり、ご守護の源泉です。おぢばは親神様が人間を創造される時、最初に宿し込みが行われた地点で、今も親神様がお鎮まりになる「よろづたすけのつとめ場所」であると教えられます。

みかぐらうたの、やしき八かみのでんぢやで、まいたるたねハみなはへる (七下り目8)

とのお言葉をはじめ、おぢばについて教祖からお教え

いただく教理について思索を進めていくと、おぢばを中心とするおやしきは、単にご利益をいただく場所ではなく、私たちが種まきをする「神の田地」であることが分かります。つまり親神様は、私たちがぢばに尽くし運んだ誠真実を物種として受け取ってください、やがてそれが芽生えて収穫できる頃になると、やしきのつちをほりとりて、ところかへるばかりやで (十一下り目8)

と仰せになる通り、種を蒔いた人の魂にすべてお返しくださるのであります。では種を蒔くというのは何を指すのでしょうか。それは我が身の行いと言葉の使い方にあります。

病気や事情で悩んだり困っている人をお連れしてのおぢばがえり。またさまざまな形でつとめるひのきしん。あるいは、家族で交わす一言の言葉さえも、神の田地に蒔かれた種として天に通じていくのです。

また教祖は、このようにもお教えくださいました。「種を蒔くというのは、あちこち歩いて、天理王の話をして廻るのやで」。

(教祖伝逸話篇13)

こうした行動や言葉は、一人一人の心から出ているのですから、心使いの一つ一つが種になっているといえます。おつとめの手振りやで「たね」という言葉に合わせて、胸に手をとるのはそのことを示されていると

悟れるでしょう。そして喜びの種を蒔けば喜びの事柄が芽生え、不平不満の種を蒔けば、不平不満を感じるような出来事が芽生えてくる。これが天然自然の道理です。

したがっておぢばへ帰る時には、日々結構に暮らすことができる喜びと感謝の言葉に加えて、人のたすかりを祈る気持ちを、明るい心に乘せて親神様にお供えする姿勢が大切です。

でご恩報じに明け暮れ、教えを実践しようとする誠真実。この積み重ねが揺るぎのない魂の徳となつて、この先の道を支えてくれるのです。魂の徳なくして、人生を真つ当に通ることはできません。いかなる地位も名誉も財産も、魂の徳という、目には見えない土台の上になり立っています。土台が弛めばすべてが崩れ去る。混迷を深める昨今の世相がそれを物語っているのではないのでしょうか。

今年の活動目標は、昨年が続いて「今日を陽気につながら、つなげる」です。このスローガンを胸に刻んで、いつも教祖とおぢば、そして教会に心をつなぎ、感謝と喜びの種を一つ一つ蒔きながら日々を送りましょう。そして世の人々に、魂に徳を積む信仰の大切さを伝えていきましょう。それがひながたの道を歩むことなのですから。

【第 111 回】

ぢばに蒔く誠真実の種が揺るぎない魂の徳となる

日夜たゆまず教会に運ん

教人登録者

(令和5年11月15日付)
伊藤智美(本心実)

1月のおさづけの理拝戴者

林幸多郎(本晃)
西野慎平(本則武)
鈴木結治(本豊國)
鈴木真美(本豊國)

1月の初席者

プジョーワイトウン
カーサナアン(本和合)
村松大樹(本心宮)
田中雄大(本耕愛)
大橋隆人(本愛中)

本山王分教会二代会長

佐々シマ之霊の五十年祭

本山王分教会では1月21日午前11時より、二代会長・佐々シマ之霊の五十年祭が同分教会で行われた。

お出直し

稲葉信子氏(本枇西分教会)

二代会長夫人)

1月18日に出直された。享年93歳。告別式は1月20日午前10時より、青木健裕役員を斎主として執り行われた。

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう!

第994期 修養科生大募集

《集合・面接》☆日時…3月25日 午後1時 ☆場所…本愛詰所

※3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

本愛団サポーター
大募集



一緒に活動を盛り上げよう!

大教会日誌

令和6年1月25日～令和6年2月24日

1月

26日 本部春季大祭

13日 月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

祭主・大教会長 扨者・田中新一、松浦道太郎

指図方・安藤正二郎 賛者・大池美公雄、杉下和平

2月

1日 入社祭

◇祭典講話一大教会長

祭主・大教会長 扨者・大橋進、板山眞一

青年会例会

指図方・筑紫英一 賛者・安井篤、出口順一郎

14日 布教実修所

◇祭典講話一大教会前会長

16日 むつみ会例会

2日 よふき会例会

17日 こども食堂MOGU (参加者80人)

おつとめ・十二下りてをどり

18日 少年会ニコリンピック (参加者121人)

11日 女子青年例会

20日 婦人会例会 委員部長講習会

12日 常任役員会議

講話—安藤ちかい・本愛支部長